

太田川の環境整備 ～親まれる川を目指して～

「水の都」広島市の水辺空間を魅力的なものにしていくため、国土交通省・広島県・広島市が共同で平成2年に「水の都整備構想」を策定し、これに基づいた環境整備を行ってきました。その後、平成15年に「つかう・つくる・つなぐ」の3つの基本方針を柱とした新たな「水の都ひろしま」構想がまとまり、実現に向けさらに整備が進められています。

「水の都ひろしま」構想の3つの柱
つかう：～市民による水辺の活用～
つくる：～水辺空間の整備とまちづくりとの一体化～
つなぐ：～水辺のネットワークと水の都の仕組みづくり～

元安川親水テラス



元安川の原爆ドームの対岸に、水辺に近づきやすい階段状の親水テラスを整備しました。毎年「原爆の日」には、平和を願う「灯ろう流し」や親水テラスを晴れ舞台とした「水辺のコンサート」など多くの催しが行われ、市民や観光客の憩いの空間となっています。

橋梁アンダーパス



橋梁アンダーパス



北大橋東詰アンダーパス

橋で分断されていた水辺の遊歩道の連続性を確保するため、橋梁下の遊歩道「アンダーパス」整備を行っています。

基町環境護岸



親水性を持たせた川づくりの先駆けとして基町環境護岸整備を行いました。都市部に開かれた水と緑のオープンスペースとして市民の憩いの場となっています。基町環境護岸は、2003年度土木学会デザイン賞(特別賞)を受賞しました。現在、広島市が利用計画を検討している旧広島市民球場跡地箇所との回遊性向上を目指した環境整備を検討しています。

オープンカフェ

～都市及び地域の再生等のために利用する施設～



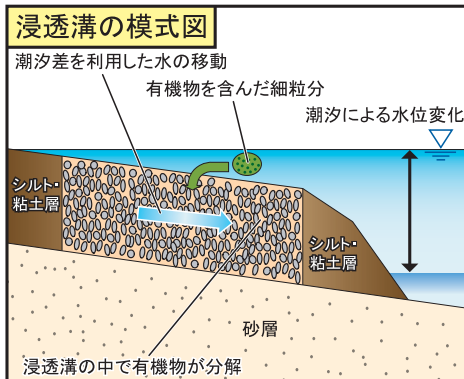
元安川

公共空間の多目的利用を図るため、民間事業者による河川敷地占用許可準則に係る占用の特例で営業活動が行われています。

平成17年10月に開業したオープンカフェ(広島市)は、にぎわいのある水辺をつくり出しています。

底質改善実験

市内派川に発達する河川干潟は、下流にいくほど有機泥の堆積が厚くなり、最大で約40cmにもなります。このような底質を改善し、泳げ遊べる水辺づくりを目指して、石炭灰を活用した実証実験を平成20年度から行っています。モニタリング結果より、歩きやすさ(地盤支持力)や生物の生息環境(巣穴の増加)などの改善が確認され、今後は、天満川、旧太田川、元安川において取組を進めます。



底質部に石炭灰を埋め込み、潮の干満差を利用して水循環を形成することにより底質部の環境を改善する技術です。



石炭火力発電所から出る石炭灰を粒状に固めた「石炭灰造粒材」を埋め込んだ状況です。

やすらぎとふれあいの水辺空間

～古川の多自然川づくり～



広島市安佐南区

都市域で貴重な自然環境が多く残る古川を周辺のまちづくりとの調和を図りながら整備しています。

水辺の楽校



カヌー体験(三篠川)

子ども達の自然教育の場として、緩傾斜護岸など親水性に配慮した河川整備を行う「水辺の楽校」を展開しています。